

平成28年度館林ケーブルテレビ放送番組審議会

議事録

1.開催日時 平成28年11月21日(月) 11:30～13:00

2.開催場所 館林商工会議所

3.出席委員 審議委員総数 13名

出席委員数 13名

■出席者(敬称略)

安楽岡	一雄	会長	(館林市長)
川田	亨	副会長代理	(板倉町)
野本	泰生	委員代理	(明和町副町長)
笠原	進	委員代理	(館林商工会議所 常務理事)
市澤	孝一	委員	(板倉町商工会 会長)
始澤	昭	委員	(明和町商工会 会長)
高橋	浩幸	委員代理	(館林地区消防組合館林消防署長)
横山	文男	委員	(館林市区長協議会 理事)
増田	文和	委員	(板倉町行政区長会 会長)
山本	樹	委員	(まちづくりを考える研究グループ代表幹事)
間渕	律子	委員代理	(館林市女性団体連絡協議会 書記)
猪熊	妙子	委員	(館林市教育委員会 教育長職務代理者)
景山	初女	委員	(板倉町教育委員会 委員長職務代理者)

■ケーブルテレビ株式会社 出席7名

高田	光浩	(代表取締役)
小林	康行	(執行役員 事業本部長)
大川	進	(コンテンツ部課長)
今泉	勉	(コンテンツ部 TVグループ係長)
関口	百合子	(コンテンツ部 TVグループ主任)
平野	泰平	(コンテンツ部 TVグループ主任)
宮越	友里	(コンテンツ部 TVグループ)

4. 報告事項

全体に関する事項

- (1) 新委員の委嘱に関するご報告
- (2) 放送エリア及び加入状況に関するご報告
- (3) 新たなサービス、取り組みに関してのご報告

コミュニティチャンネルに関する事項

- (1) 平成 28 年度コミュニティチャンネルに関するご報告
- (2) 今後の取り組みに関するご報告

5. 審議事項

- (1) ご視聴番組・コミュニティチャンネルに関するご意見・ご質問

【質問・回答】

(委 員) 防災用定点カメラの設置予定場所は？

(ＣＣ９) 増水が考えられる箇所や観光誘致に繋がると考えられる場所に設置予定。
コミュニティチャンネルの他、ホームページから閲覧可能。台風や地震などの災害放送にも活用する。

(委 員) ケーブルテレビで災害番組の放送は出来ないのか？

(ＣＣ９) 栃木では昨年 9 月の関東東北豪雨の際、災害後の様々な状況をお伝えするとともに、住民の皆さんへの注意喚起を目的とした番組を放送した。館林市もいつ災害が起こるか分からない。防災チャンネルでは群馬県も含めて、注意喚起できる番組を作っていきたい。

(委 員) 行政とコンタクトを取りながら更に中身の濃い放送をしていって欲しい。

(ＣＣ９) 行政だけでなく地域の様々な各種関係機関と協力して、多くの方にご利用頂けるように頑張っていきたい。

(委 員) ラジオも実施してみてもどうか。

(ＣＣ９) 昨年 11 月 3 日に栃木県では初のコミュニティ FM を開局した。ラジオを聞いた方々からは、防災の面から役立つとお声を頂いた。様々な角度から無線の帯域について検討をしていく。

(委 員) 買い物弱者が今後増えていくと思われる。地元の商工会や会議所が
タイアップして強化していければと考えている。

(ＣＣ９) 高齢化社会になる中、地元のお店の方とうまくコラボレーションして買い物支援が出来ないかと考えている。

(委 員) 地域に根ざした自主的な番組を制作して欲しい。昭和２２年には、渡良瀬川が決壊した大水害があったが、隣近所の触れ合いがあつてなんとか乗り越えた。

(ＣＣ９) 地域の皆様にどんどん参加して欲しい。コミュニケーションの輪を広げていくのも、我々の役割。コミュニティチャンネルを通して、住民の皆さんが考える場を作れるような番組などを作り上げていきたい。

(委 員) ケーブルテレビを身近に感じている。初期費用はどれくらい掛かるのか？

(ＣＣ９) 初期費用についてはご加入キャンペーンを実施している。家族や地域のコミュニケーションが生まれるよう、番組作りにますます力を入れていかなければならないと感じている。利用者様の半分以上が５０代以上の世代。コミュニケーションを育成していくような番組作りをしていきたい。

【ご意見】

(委 員) 各種行事等を行うときは情報提供をさせて頂ければと思う。

(委 員) 災害に関するサービスがあるとケーブルテレビの利用増に繋がると思う。
また、清掃活動に関する取材もして頂ければ、見た方が清掃活動への参画を意識して頂けるという役割もある。

(委 員) 良い番組を作っても、見てもらえなければ意味がない。
多くの市民・町民が情報を得る機会を設けられるように、テレビというツールを行政側はもっと活用すべき。

(委 員) 生きがいづくりのためにも、館林市、板倉町、明和町と連携してケーブルテレビを生かしていきたい。

(委 員) 災害啓蒙が高まっている。住民に一早く伝える有効な手段がない。ぜひ行政機関と連携してケーブルテレビを活用していきたい。

以上